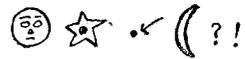




## 観 帳 測

花山天文臺 中 村 要



毎年6月は梅雨期なので時々晴れる事はあつても快晴の日は稀しい。今年も其の例にもれず上旬と月末に一二日晴れた切りで全くひどい天気であつた。

**小遊星ハーモニア** (40) ハーモニアは8月23日に明るい衝になる。此の星は1856年3月31日にパリで Goldschmidt が発見した星である。軌道は圓に近い。

8月1日	22時	27.1分	-15°	46'	
	9	22	21.4	-16	42
	17	22	14.5	-17	40
	25	22	7.0	-18	34

光度 8.9等

**Object Reinmuth** ラインムート天體は餘り早く西の方に動いたので5月末にも観測の機会を失つた。ヤーキス天文臺の Van Biesbroeck 氏の眼視観測によると其の像は全くの恒星状の像で明らかに小遊星である。1932 HA と命名された。

**シェール氏の死** スイス國ゼネバの有名なレンズ及反射鏡製作者であつたシェール Schær 氏は昨年9月に死去された。同氏は各種の對物レンズ殊にカセグレン式反射鏡の製作には獨特の技術を有して居た。ゼネバ天文臺の口径1米 F3 の高速寫眞鏡。佛バク天文臺の60センチ反射鏡、ゼネバ天文臺の20センチ寫眞鏡玉等は同氏の製作にかゝるものである。

**ベルゲドルフ天文臺の小遊星観測** 獨逸 Bergedorf 天文臺では1916年頃から引續いて時々小遊星を観測して居る。器械は二箇あつて、一つは Lippert 望遠鏡と稱せられるツァイス製天體寫眞儀で、赤緯軸の片側は口径30センチのペツプル及びトリプレット F5鏡玉に20センチ案内望遠鏡のついたもので、これを主として小遊星に使つて居

る。赤緯軸の他の側には口径34センチ、焦點距離340センチで口径23センチの案内望遠鏡のついた天圖寫眞望遠鏡とほぼ同型のものがついて居り、これはエロスの如き位置の精測を要する観測に使つて居る。観測者は Schwassmann 及び Wachmann 兩氏である。も一つの器械は口径100センチ焦點距離300センチの大反射鏡で今は Schorr氏が使つて居る。これを使つて(944) Hidalgo 及び(1036) Ganymed の如き珍星を発見した Baade 氏は今はキルソン山に行つて居る。

**観測急報** 急報は6月末で發行部数は僅か10部である。急報は主として彗星の発見電報、位置推算、其他天界のニュースをのせて居る。最初は半紙にすつて居たが、最近は都合によつて葉書にすつて居る。希望者は宛名を書いた葉書を十二枚づつ天文臺内中村要宛に送つてほしい。用紙の葉書が切れた時は最終のもので品切れの事を通知する。料金は今後は一枚につき一錢の割で三錢切手で葉書と同封して送つてほしい。

**光學研磨室より** 6月になつてから直径6センチ弱、焦點距離70センチの對物レンズを二個仕上げた。10センチ以下のものは全部手磨きでないと真い面が出来ないのでやりにくい。改發氏の13センチ寫眞鏡玉のプリント材がついたので6月末から7月にかけて其の工作に急がしい。

**對物レンズ書却** 約二年前死去された上海支部の森義清氏の所持せられた口径4吋焦點距離60吋の對物レンズが手許に預つてあります。英國オットエー會社製の Best quality のもので、自分の試験した所では球面收差の全くない稀に見る良好なレンズであります。賣價は時價の半分130圓であります。